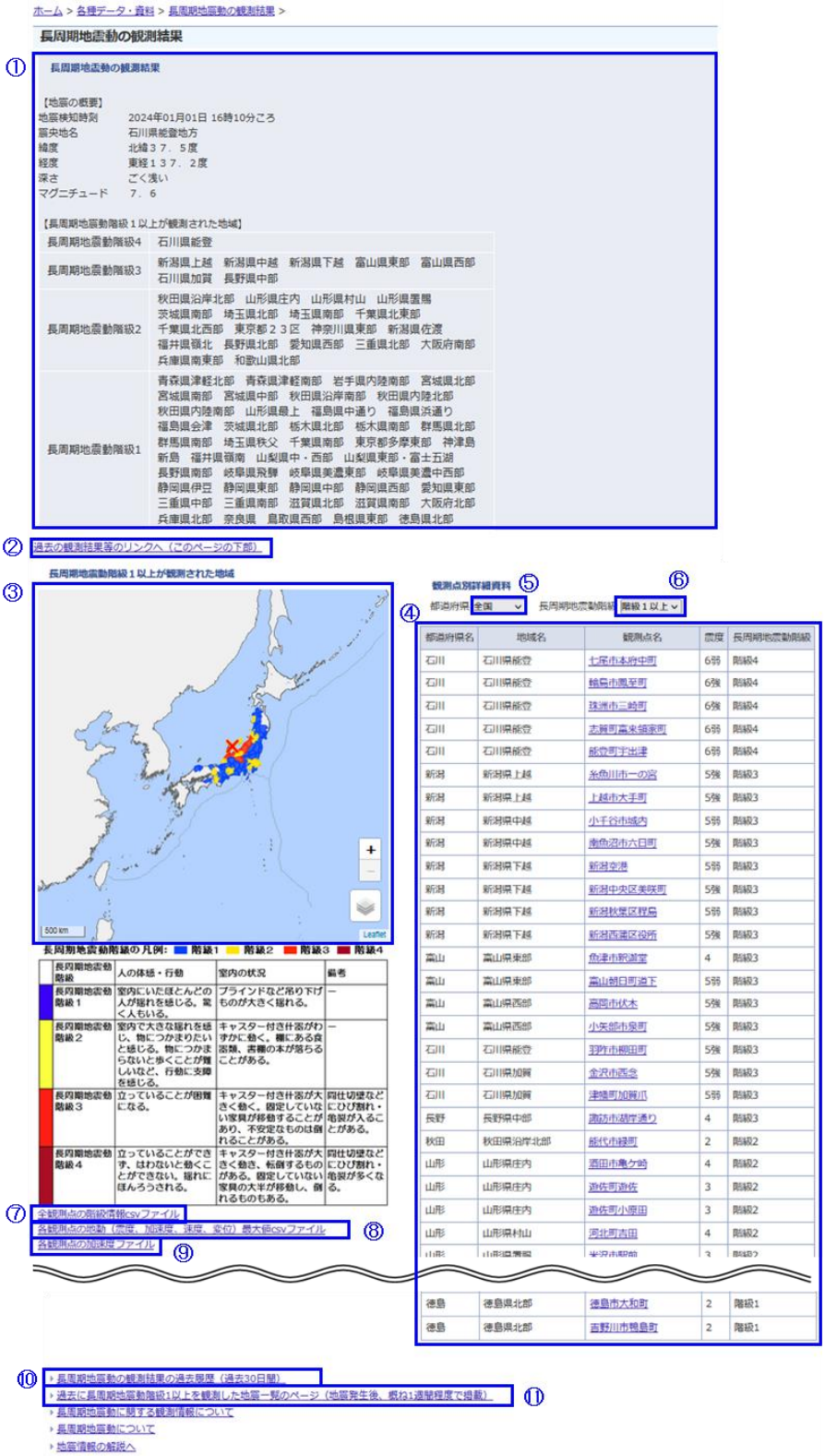
令和６年３月４日更新

# 長周期地震動の観測結果ページの見方

## 【トップページの説明】



① 地震の情報（震源の位置（緯度・経度、深さ）、マグニチュード等）※と長周期地震動階級１以上が観測された地域を示します。長周期地震動階級１以上が観測された地域名は、震度速報で用いている全国を 188 の地域に分割した地域名を用い、その地域における気象庁の地震計での最大の長周期地震動階級を表示します。（※速報値を表示。長周期地震動階級１以上を観測した地震のページでは暫定値を表示。）

② 過去の情報等、ページ下部にあるリンク部分へと移動します。

③ 長周期地震動階級１以上が観測された地域を図示しています。図を拡大・縮小することが可能です。

④ 震度１以上を観測した気象庁の地震計での震度と長周期地震動階級を表示します。震度の欄中では、「各地の震度に関する情報」に掲載した震度を表示しています。震度を発表していない観測点（震度０や欠測の観測点等）は表示しません。
長周期地震動階級の欄中では、観測された長周期地震動階級を示しており、「階級０」は長周期地震動階級１に達していなかったことを示しています。
震度と長周期地震動階級は、表の項目名部分をクリックすると降順にソートします。
リンクをクリックすることで、観測点詳細ページに遷移します。

⑤ プルダウンメニューでご覧になりたい都道府県を選択すると、その都道府県における気象庁の地震計での震度と長周期地震動階級を表示します。

⑥ プルダウンメニューで、長周期地震動階級により表示する観測点を変更します。該当する観測点がない場合は「長周期地震動階級〇以上を観測した観測点はありません」と表示されます。

⑦ 対象とする地震で観測された長周期地震動階級等を掲載している csv ファイルです。

⑧ 対象とする地震で観測された地動（震度、加速度、速度、変位）最大値を掲載している csv ファイルです。

⑨ 加速度波形データの csv ファイルです。（観測された全観測点分をひとつのファイルに圧縮して掲載しています。）

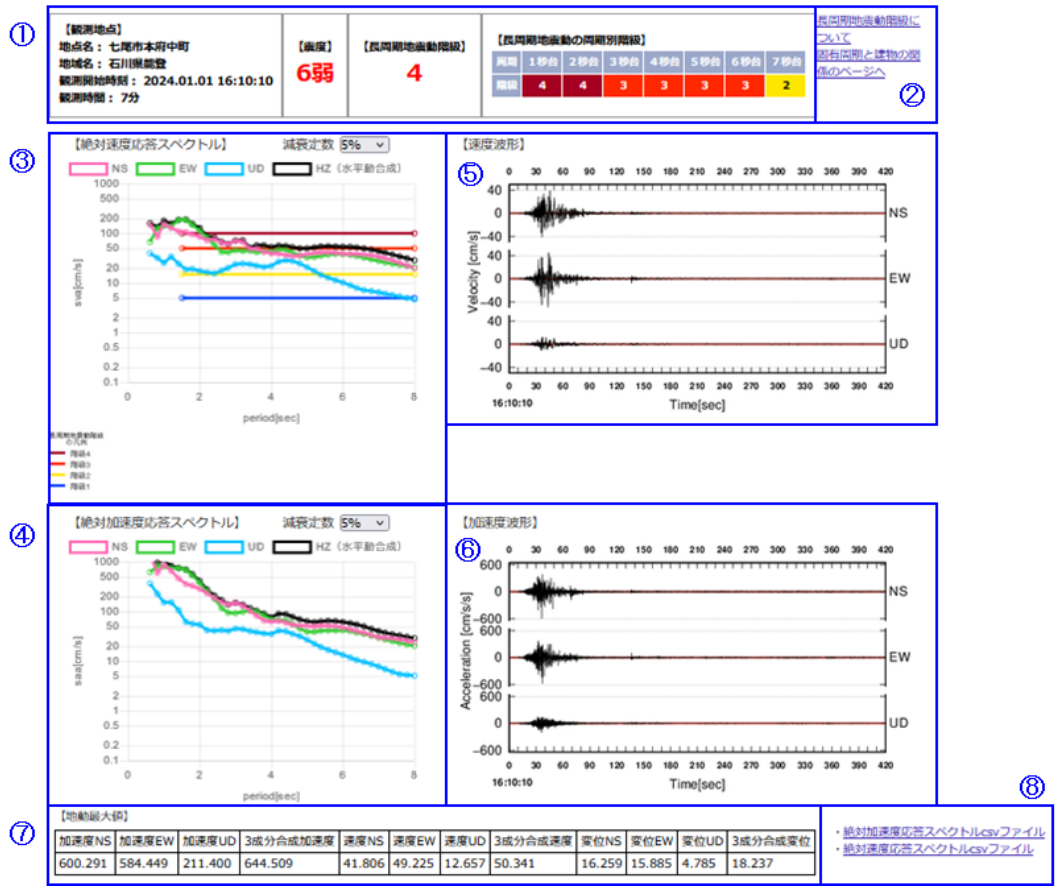
⑩ 過去履歴（過去 30 日間）のページに遷移します。

⑪ 地震発生後、概ね１週間程度で掲載する、長周期地震動階級１以上を観測した地震のページに遷移します。

表　プルダウンメニューで分割して表示している都道府県

| 都道府県 | プルダウンメニューの名称 | 含まれている地域名 |
|---|---|---|
| 北海道 | 北海道道央 | 石狩地方北部、石狩地方中部、石狩地方南部、後志地方北部、後志地方東部、後志地方西部、空知地方北部、空知地方中部、空知地方南部 |
| | 北海道道南 | 渡島地方北部、渡島地方東部、渡島地方西部、檜山地方、北海道奥尻島、胆振地方西部、胆振地方中東部、日高地方西部、日高地方中部、日高地方東部 |
| | 北海道道北 | 上川地方北部、上川地方中部、上川地方南部、留萌地方中北部、留萌地方南部、宗谷地方北部、宗谷地方南部、北海道利尻礼文 |
| | 北海道道東 | 網走地方、北見地方、紋別地方、十勝地方北部、十勝地方中部、十勝地方南部、釧路地方中南部、釧路地方北部、根室地方北部、根室地方中部、根室地方南部 |
| 東京都 | 東京 | 東京都２３区、東京都多摩東部、東京都多摩西部 |
| | 伊豆諸島 | 神津島、伊豆大島、新島、三宅島、八丈島 |
| | 小笠原 | 小笠原 |
| 鹿児島県 | 鹿児島 | 鹿児島県薩摩、鹿児島県大隅、鹿児島県十島村、鹿児島県甑島、鹿児島県種子島、鹿児島県屋久島 |
| | 奄美 | 鹿児島県奄美北部、鹿児島県奄美南部 |
| 沖縄県 | 沖縄本島 | 沖縄県本島北部、沖縄県本島中南部、沖縄県久米島 |
| | 大東島 | 沖縄県大東島 |
| | 宮古島 | 沖縄県宮古島 |
| | 八重山 | 沖縄県石垣島、沖縄県与那国島、沖縄県西表島 |

## 【観測点詳細ページの説明】




① 観測点の震度情報における発表名称、観測点が位置する地域名称、地震波形の観測時間、観測点における震度、観測点における長周期地震動階級、観測点における周期別階級を示します。周期階級として、周期 1.6 秒～周期 1.8 秒を１秒台、周期 2.0 秒～周期 2.8 秒を２秒台、周期 3.0 秒～周期 3.8 秒を３秒台、周期 4.0 秒～周期 4.8 秒を４秒台、周期 5.0 秒～周期 5.8 秒を５秒台、周期 6.0 秒～周期 6.8 秒を６秒台、周期 7.0 秒～周期 7.8 秒を７秒台、と表示しています。また、震度は、「震源・震度情報」に掲載した震度を表示しています。

② 長周期地震動階級や固有周期と建物の関係を解説しているページに遷移します。

③ 絶対速度応答スペクトルグラフを示します。（各成分ごと（NS、EW、UD）および水平動合成）。減衰定数は 0.5%、2%、5%、20%から選択できます。減衰定数 5%のグラフでは、長周期地震動階級の閾値を図示しています。

④ 絶対加速度応答スペクトルグラフを示します（各成分ごと（NS、EW、UD）および水平動合成）。減衰定数は 0.5%、2%、5%、20%から選択できます。

⑤ 地動速度時刻歴波形グラフを示します。成分は、上から南北成分（NS）、東西成分（EW）、上下成分（UD）となっています。

⑥ 地動加速度時刻歴波形グラフを示します。成分は、上から南北成分（NS）、東西成分（EW）、

上下成分（UD）となっています。

⑦ 地動（加速度、速度、変位）の最大値を示します。

⑧ 絶対速度応答スペクトルグラフおよび絶対加速度応答スペクトルグラフの作成に用いたデータの csv ファイルです。

【ダウンロード可能な各種データファイルについて】

〇全観測点の階級情報 csv ファイル（level.csv）

１行目：　項目名（左から順に以下のとおり）

・震度計番号：震度計を識別するための５桁の番号
・観測点名称：震度情報における発表名称
・地域名称：観測点が位置する地域名称
・観測開始時刻：地震波形の観測開始時間
・観測時間（分）：地震波形の観測総時間（分）
・長周期地震動階級：観測点における長周期地震動階級の周期１秒台～７秒台の最大値
・１秒台：周期１秒台の長周期地震動階級
・２秒台：周期２秒台の長周期地震動階級
・３秒台：周期３秒台の長周期地震動階級
・４秒台：周期４秒台の長周期地震動階級
・５秒台：周期５秒台の長周期地震動階級
・６秒台：周期６秒台の長周期地震動階級
・７秒台：周期７秒台の長周期地震動階級
・観測点緯度：観測点の緯度（世界測地系）
・観測点経度：観測点の経度（世界測地系）

２行目以降：　観測点ごとのデータ

〇各観測点の地動（震度、加速度、速度、変位）最大値 csv ファイル（max.csv）

１行目：　項目名（左から順に以下のとおり）

・震度計番号：震度計を識別するための５桁の番号
・観測点名称：震度情報における発表名称
・緯度：観測点の緯度（世界測地系）
・経度：観測点の経度（世界測地系）
・震度：震度情報で発表した震度
・最大加速度 NS[cm/s/s]：観測期間における南北成分の加速度の最大値
・最大加速度 EW[cm/s/s]：観測期間における東西成分の加速度の最大値
・最大加速度 UD[cm/s/s]：観測期間における上下成分の加速度の最大値
・最大加速度３成分合成[cm/s/s]：観測期間における３成分合成の加速度の最大値

・最大速度 NS[cm/s]：観測期間における南北成分の速度の最大値
・最大速度 EW[cm/s]：観測期間における東西成分の速度の最大値
・最大速度 UD[cm/s]：観測期間における上下成分の速度の最大値
・最大速度３成分合成[cm/s]：観測期間における３成分合成の速度の最大値
・最大変位 NS[cm]：観測期間における南北成分の変位の最大値
・最大変位 EW[cm]：観測期間における東西成分の変位の最大値
・最大変位 UD[cm]：観測期間における上下成分の変位の最大値
・最大変位３成分合成[cm]：観測期間における３成分合成の変位の最大値

２行目以降：　観測点ごとのデータ

注）これらの地動最大値の値については、気象庁が発行している強震観測報告に掲載している値とは異なる場合があります。

〇絶対加速度応答スペクトル csv ファイル（NNNNNYYYYMMDDhhmmss_accsp.csv※）

※NNNNN は観測点番号、YYYY は西暦、MM は月、DD は日、hhmmss は時分秒を示す。

１行目：　震度情報における発表名称（SITE CODE）
２行目：　観測点の緯度（LAT）
３行目：　観測点の経度（LON）
４行目：　データの単位（UNIT）
５行目：　観測開始時刻（INITIAL TIME）
６行目：　７行目以降のデータに関する項目名（左から順に以下のとおり）

・period：固有周期（0.2 秒刻み）
・0.005_ns：減衰定数 0.5%の絶対加速度応答スペクトル値（南北成分）
・0.005_ew：減衰定数 0.5%の絶対加速度応答スペクトル値（東西成分）
・0.005_ud：減衰定数 0.5%の絶対加速度応答スペクトル値（上下成分）
・0.005_hz：減衰定数 0.5%の絶対加速度応答スペクトル値（水平動合成）
・0.020_ns：減衰定数 2%の絶対加速度応答スペクトル値（南北成分）
・0.020_ew：減衰定数 2%の絶対加速度応答スペクトル値（東西成分）
・0.020_ud：減衰定数 2%の絶対加速度応答スペクトル値（上下成分）
・0.020_hz：減衰定数 2%の絶対加速度応答スペクトル値（水平動合成）
・0.050_ns：減衰定数 5%の絶対加速度応答スペクトル値（南北成分）
・0.050_ew：減衰定数 5%の絶対加速度応答スペクトル値（東西成分）
・0.050_ud：減衰定数 5%の絶対加速度応答スペクトル値（上下成分）
・0.050_hz：減衰定数 5%の絶対加速度応答スペクトル値（水平動合成）
・0.200_ns：減衰定数 20%の絶対加速度応答スペクトル値（南北成分）
・0.200_ew：減衰定数 20%の絶対加速度応答スペクトル値（東西成分）

・0.200_ud：減衰定数 20%の絶対加速度応答スペクトル値（上下成分）
・0.200_hz：減衰定数 20%の絶対加速度応答スペクトル値（水平動合成）
７行目以降：　周期ごとのデータ

〇絶対速度応答スペクトル csv ファイル（NNNNNYYYYMMDDhhmmss_velsp.csv※）
※NNNNN は観測点番号、YYYY は西暦、MM は月、DD は日、hhmmss は時分秒を示す。
１行目：　震度情報における発表名称（SITE CODE）
２行目：　観測点の緯度（LAT）
３行目：　観測点の経度（LON）
４行目：　データの単位（UNIT）
５行目：　観測開始時刻（INITIAL TIME）
６行目：　７行目以降のデータに関する項目名（左から順に以下のとおり）
・period：固有周期（0.2 秒刻み）
・0.005_ns：減衰定数 0.5%の絶対速度応答スペクトル値（南北成分）
・0.005_ew：減衰定数 0.5%の絶対速度応答スペクトル値（東西成分）
・0.005_ud：減衰定数 0.5%の絶対速度応答スペクトル値（上下成分）
・0.005_hz：減衰定数 0.5%の絶対速度応答スペクトル値（水平動合成）
・0.020_ns：減衰定数 2%の絶対速度応答スペクトル値（南北成分）
・0.020_ew：減衰定数 2%の絶対速度応答スペクトル値（東西成分）
・0.020_ud：減衰定数 2%の絶対速度応答スペクトル値（上下成分）
・0.020_hz：減衰定数 2%の絶対速度応答スペクトル値（水平動合成）
・0.050_ns：減衰定数 5%の絶対速度応答スペクトル値（南北成分）
・0.050_ew：減衰定数 5%の絶対速度応答スペクトル値（東西成分）
・0.050_ud：減衰定数 5%の絶対速度応答スペクトル値（上下成分）
・0.050_hz：減衰定数 5%の絶対速度応答スペクトル値（水平動合成）
・0.200_ns：減衰定数 20%の絶対速度応答スペクトル値（南北成分）
・0.200_ew：減衰定数 20%の絶対速度応答スペクトル値（東西成分）
・0.200_ud：減衰定数 20%の絶対速度応答スペクトル値（上下成分）
・0.200_hz：減衰定数 20%の絶対速度応答スペクトル値（水平動合成）
７行目以降：　周期ごとのデータ

〇加速度波形 csv ファイル(NNNNNYYYYMMDDhhmmss_acc.csv※)
※NNNNN は観測点番号、YYYY は西暦、MM は月、DD は日、hhmmss は時分秒を示す。また、
ファイルは観測のあった全観測点をまとめて zip に圧縮していますので、解凍して

使用してください。なお、観測点番号と観測点の名称の対応は、level.csv を参照ください（圧縮ファイル zip に含んでいます）。

１行目：　震度情報における発表名称（SITE CODE）
２行目：　観測点の緯度（LAT）
３行目：　観測点の経度（LON）
４行目：　サンプリング周波数（SAMPLING RATE）
５行目：　データの単位（UNIT）
６行目：　観測開始時刻（INITIAL TIME）
７行目：　８行目以降のデータに関する成分名（左から順に以下のとおり）
・NS：南北成分
・EW：東西成分
・UD：上下成分
８行目以降：　成分ごとの加速度データ